

最終更新日： 2024年2月10日

授業科目名 (講義題目)	組織マネジメント			開講学期	後期
				曜日時限	火曜 II 限
				単位数	2
担当教員名	中本 龍市	講義コード	科目区分	対象学生	
		24176104	必修	1 年生	
開講予定日	①10/8 ②10/15 ③10/22 ④10/29 ⑤11/5 ⑥11/12 ⑦11/19 ⑧11/26 ⑨12/3 ⑩12/10 ⑪12/17 ⑫12/24 ⑬1/14 ⑭1/21 ⑮1/28				
履修条件	入学時に示された事前学習課題を必ず自習しておくこと(この講義に関連する内容に関連しては、学習負担を軽減するため、一部前撮り動画としている)。	キーワード	組織、マイクロ組織論、マクロ組織論、戦略		
全体の教育目標	1)MBA科目の全体の中での組織マネジメントを理解し応用できるようになる 2)組織マネジメントの理論を経営実践へと応用できるようになる(理論と持論を接合できるようになる) 3)社会科学の方法論、基本的な研究方法論をマスターし、実務への応用ができるようになる	個別の学習目業	1)組織論の基礎的概念と組織の仕組みを理解できる。 2)必要な関連課題を自主的に調べ、自力で組織分析を行うことができる 3)これらを元にディスカッションができる 4)修士論文やプロジェクト論文の調査方法、研究方法の基礎を習得する		

授業の概要

<授業の概要>

組織マネジメントの中心である組織論を軸にしてマネジメントの基礎を学ぶ。その際に、世界中のテキストで掲載されているトピックの「根拠」は何かについて根こそぎ考えて理解することを目標とする。

世界中のテキストで掲載されているトピックは、重要なトピックばかりである。しかし、その根拠、最近の言葉で言えば、「エビデンス」とは何であろうか？

具体的に考えてみれば、モチベーションの理論であれば、マズローの欲求階層説、戦略の理論であれば、ポーターの5フォースモデルなどが挙げられる。こうした著名なコンセプトを支えている根拠とは、何であったのか？そのエビデンスまで遡れば、どのようにそれらの結論を「割り引いて」自分の問題や状況に適用可能か判断できるであろう。

経営組織に関して、組織構造、構成員、組織文化、モチベーション、イノベーション、戦略など組織論の範疇に入る事象、それに関連する概念について解説する。この講義の特徴を挙げるとすれば、学びや学習を中心に語ることと、調査・研究方法論の基礎を合わせて学ぶことである。これを通して、自分自身の持論の拡張や、修士論文やプロジェクト論文の執筆の準備が可能である。この講義では、これまでの経験や持論が中心にあるため、それらを言語化する努力が求められる。

講義では、これらの概念を元にして、チームによる実際の事例を用いた分析報告とディスカッションを行うなどアクティブラーニングの諸手法を導入する。

※講義内容は、毎年大幅に変わるので以下をよく読んで十分に注意すること

※当然、毎年の受講者の理解度や、実務的背景、ダイバーシティによって取り上げる内容や、講義の順序、展開速度は異なる

※上述したように、各回でテーマが異なるため、それらのテーマで、自分の持っている持論は何か改めて考えること、言語化し、共有し、相対化すること

※シラバス執筆時点と開講時とは、状況が異なっていることがある。講義開始時点での講義計画が優先されることに注意すること。

※国や県、大学等から発信される感染状況等に十分に情報を収集しておくこと。

※予め、zoom社のzoom meetingをダウンロードしておくこと

(<https://explore.zoom.us/ja/products/meetings/>などから入手可能である)。セキュリティや動作の安定性のため、必ず、最新版に更新しておくこと。あわせて、PCのセキュリティソフトをインストールし最新の状態を保っておくこと。

※グループワークのためにポストークを利用する必要がある(<https://postalk.app/>)。現時点では、リンクさえ知ることができればアクセスできるため、事前にダウンロードする必要はない。

※事後学習や相談、学習コミュニティの維持のため、slackやchatwork等を用いる場合がある。

授業の最新情報 案内方法	<p>・九州大学Moodle</p> <p>※講義のページあるいは掲示板で掲出することを原則とする。ただし、今後の感染状況等によって変更する可能性がある。</p> <p>教員の公開アドレスはryunakamoto@econ.kyushu-u.ac.jpである。</p>		
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> ■講義 Lecture ■グループワーク、ペアワーク Group work ■プレゼンテーションPresentation ■ディスカッションDiscussion ■その他Others（必要に応じて外部講師を招聘する場合や、他の部局等で提供される連携講座等への出席を推奨することがある） 	使用する教材等	<ul style="list-style-type: none"> ■板書Writing on whiteboard ■テキスト（紙媒体）Textbook, Printed material ■スライド資料（電子媒体）Electronic media ■映像・音声資料Audio/Video
授業の進め方	<p>アクティブラーニングを導入する(上述されている授業形態を参照すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と具体的なケースのディスカッションを元に行う(ただし、ケースディスカッションは深く行いたいため、ケースで取り上げる企業は数社程度とする。それらのごく限られた企業を対象に、様々な観点から検討するという方法を採用する) ・グループワークとしてケーススタディの企業を選んで組織および戦略などを中心に分析を進める(ただし、感染症拡大の状況によっては大きく変更する可能性がある) ・最終レポートとして組織分析を完成させる(修士論文やプロジェクト論文への導入として方法論と、視点を身につけるように努力すること) <p>※QBS入学時に事前学習課題として指定された文献、その他の入学前教育、前期の必修科目等で既習の知識、加えて、以下に示されている教科書(例えば、ロジカルシンキングや経営学入門など)、参考文献、各回向けの参考文献などはすべて予習し、かつ、復習しているという前提で講義を進める</p> <p>※教育用ケースと研究用のケースは、異なるが、教育用ケースをもとに、追加的に分析することを通じて研究方法の基礎を学ぶ。ケース分析をディスカッションのみに用いるのではなく、調査、研究方法を学ぶという意識をもって取り組むこと。ゆえに、一回目、二回目と二度のケース報告を設定している。フロアと教員からのフィードバックに応じて修正するように想定しているが、一回目と二回目の間隔は短いので計画的にグループワークと修正の時間を予定しておくこと。</p> <p>※受講生の理解度によるが、60分の予習、90分の復習を想定している。計画的に時間を確保しておくこと。受講者の負担軽減のため、別撮りの予習あるいは復習動画を作成している場合がある。それらも有効に活用すること。</p>		

教科書及び
参考図書

※費用も記載「〇〇円＋税」（洋書等は概算で可「〇〇円程度（為替により変動）」）

・〇教科書(講義内で追加的に必要なものは適宜指定するが、基本的なものは次の通り)

○ステーブン・P・ロビンズ(高木晴夫訳)(2014)『マネジメント入門—グローバル経営のための理論と実践』ダイヤモンド社(※ 定価：本体2,800円＋税とされている。ISBN：978-4-478-02816-2。詳細は、ダイヤモンド社のウェブサイトを確認すること。なお、中古本の価格は、なお、中古本の価格は、2000円前後であるが、変動することがあるので、各自で調べること。)

原著で挑戦しようという者は、原著で購入すればよいが、その場合には、価格は書店によって大幅に異なるので、各自で調べること。あくまでも、日本語訳になっているテキストをもとに講義を進めることを想定している。日本語が原著のテキストでなく、英語が原著のテキストを指定している理由は、グローバルレベルで習う内容を伝えるためである。ロビンズ先生がウェブサイトで紹介されているように、世界で最も採用されているマネジメントのテキストの一つである

必要な部分は、PPTやWordなどの電子ファイルでMoodleを用いて配付する(印刷して配付する場合と、電子ファイルで配付する場合がある。講義の一とは、受講者の理解度や進捗状況に応じて修正するため、事前配布分と事後配付分は一致しない)。ゆえに、テキストは、受講前に受講者が入手する必要がある資料ではない。しかし、講義内容や、MBAの全体のコースを理解するために必須であるから、早めに入手しておくこと。)

参考図書として、同じくロビンズの著作)『組織行動のマネジメント—入門から実践へ』を指定しているが、上記のテキストの『マネジメント入門—グローバル経営のための理論と実践』の方が、ページ数は多いが、日本企業のケースなども挿入しながら、平易な内容にまとめられている。2冊のうち、どちらかのみしか購入できない事情であれば、『マネジメント入門—グローバル経営のための理論と実践』が良い。

なんらかの事情で入手が難しい場合には、中央図書館に蔵書がある(例えば、『マネジメント入門：グローバル経営のための理論と実践』 請求番号 335.1/R 51、『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』 請求番号 336.3/R 51)。例年、人気資料であるから早めに借りること。九州大学では、各付属図書館へ請求し受け取れる仕組みを提供しているため、わざわざ中央図書館に来館する必要がないことを付け加えておく(取り寄せ方法については、附属図書館のウェブサイトを参考にすること：<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja>)。

**教科書及び
参考図書**

知識を拓げるために読んだ方がよい資料

以下は、日常用語や、実務経験を、ビジネススクールの用語、MBA語に置き換えるとどうなるか？を考える際に役立つ。

●杉浦正和(2012)『ビジネスマンの知的資産としてのMBA単語帳』日経BP(日経BPのウェブサイトによると、1,870円(税込)とされている。ISBN N: 978-4-8222-4930-4。詳細は、日経BPのウェブサイトを確認すること。なお、中古本の価格は、150円前後であるが、送料を含めて変動することがあるので、各自で調べること。)

以下は、国内の他のスクールがどのように説明しているのかを知るために役立つ。

●早稲田大学ビジネススクール(2012)『ビジネスマンの基礎知識としてのMBA入門』日経BP(日経BPのウェブサイトによると、1,980円(税込)とされている。ISBN N: 978-4-8222-4900-7。詳細は、日経BPのウェブサイトを確認すること。なお、中古本の価格は、500円前後であるが、送料を含めて変動することがあるので、各自で調べること。)

以下は、ロビンスのやや難しいテキストである。ただ、どちらの説明がわかりやすいかは、各人の理解度や経験によるから、必要に応じて参考にすること。

●ステーブン・P・ロビンス(高木晴夫訳)(2009)『組織行動のマネジメントー入門から実践へ』ダイヤモンド社(※ダイヤモンド社のウェブサイトによると定価: 本体2,800円+税とされている。ISBN: 978-4-478-00459-3。詳細は、ダイヤモンド社のウェブサイトを確認すること。なお、中古本の価格は、2000円前後であるが、変動することがあるので、各自で調べること。)

そのほかにも必要な資料はあるが、適宜注釈を加えて配付する。とりわけ、他のビジネススクールの動向を知るために、他のビジネススクールの教員が執筆した書籍などは貴重な情報源となる。これらの資料に関連するものは、必ずしも購入する必要はないが、1年後の修士論文やプロジェクト論文の執筆に必要なテーマであれば購入した方がよい。各自で考えること。

※この講義は必修科目であることを十分に考慮して、MBAの基盤として活用可能な技能、方法論を基礎から身につけることを内容に含んでいるから、必然的に参考文献等は多くなってしまふ。毎回の講義の一とは、10頁から20頁程度であり、関連する配付資料等は、100頁から150頁程度である(内容によっては超過することもある)。これらをすべて読む必要はないが、時間に応じて優先順位をつけて挑戦しておくこと。すぐに利用しないものは、およそ1年後に修士論文やプロジェクト論文の執筆時に利用できるように整理しておくこと。

※他の国内外のビジネススクール等での講義映像は大変参考になる。これらも積極的に取り入れて最近のマネジメント教育や研究について学んでいただきたい。以下の動画では、最近のトピックと古典的トピックを15分程度の動画で紹介されており大変有用である。この講義の担当教員以外の専門家の意見にも触れる機会であるから時間を見つけて参考にしていきたい。

・元・大阪大学大学院経済学研究科・准教授 中川功一先生のウェブサイトおよびYouTube

・中川功一先生のウェブサイト

<https://note.com/koichinakagawa>

・中川先生のやさしいビジネス研究Youtube

<https://www.youtube.com/channel/UCS89vRmX0PFWxmJWOjjq6ZA>

<p>試験・成績 評価の方法等</p>	<p>1)レポート(2回分を想定)とその報告プレゼンテーション(80%)</p> <p>2)講義内でのディスカッション(コールドコールで講義内容を一言でまとめることや、zoom meetingでのチャットなども含む)の貢献(10%)</p> <p>3)講義後のリフレクション用掲示板(slackを用いる予定)での貢献(10%、業務の都合上ライブ講義に参加できないこともあると思われるが、次回のライブ講義が終わる時点までに投稿しておくこと。投稿内容は、「学んだことを踏まえて、よりよいマネジメントのために、あなたが取り入れられることを、三点以内に絞って挙げる」)</p> <p>以上の合計で100%。</p> <p>※講義内容と関連のないことを記述した場合、あるいは、発言した場合、チャット、掲示板などに書き込んだ場合には、減点する(具体的には、講義内での発言、指定されたレポート、コミュニケーションペーパー、チャット、moodleのリフレクション用掲示板等を含む)。これに関連して、ハラスメント行為にも厳正に対処するため、言動には十分に注意されたい。また、成績の再調査の申し立ての際には、1)~3)のすべての内容に対して全体を通して、最初から見直すことになる。このため再評価の結果、成績が下がることがあることに注意すること。</p> <p>※コールドコールなどに支障がある場合には事前に相談すること。教員の公開アドレスは ryunakamoto@econ.kyushu-u.ac.jp である。</p> <p>WebCT :</p> <p>九州大学のmoodleの講義用のウェブサイトへ、事前あるいは事後に活用できるように講義資料をアップロードする。</p> <p>※シラバス作成から実際の講義期間までに長時間が経過しているので、内容は講義内で改めて示すものを優先することがある。また、外部講師の都合上、実施する回の順序や、取り上げる内容などを変更することがある。外部講師、講義内容によっては講義資料、映像等を公表しないことがあることに注意すること。</p> <p>※外部講師の都合上、zoom meetingでの講義を併用する必要があるため、zoom meetingをインストールし、最新バージョンを保つようにしておくこと(ブレイクアウトルーム等を用いたグループワークの都合上、最新バージョンでなければ利用できない機能があるため)。</p> <p>https://explore.zoom.us/ja/products/meetings/</p>
--------------------------------	--